

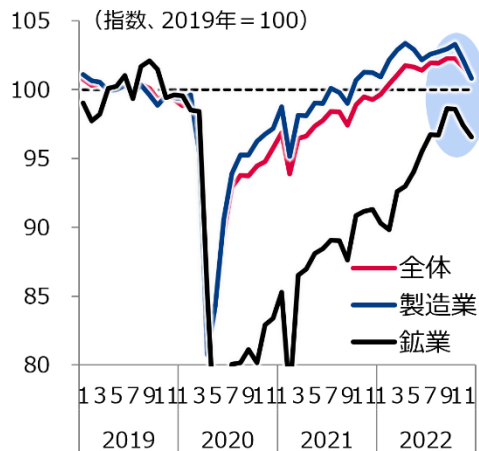
米国

鉱工業生産指数（2022年12月）

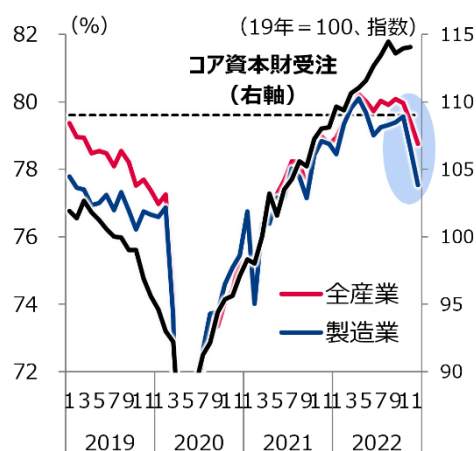
## 鉱工業生産は2カ月連続減も、先行き大幅減は回避見込み

政策・経済センター  
浅井優汰  
03-6858-2717

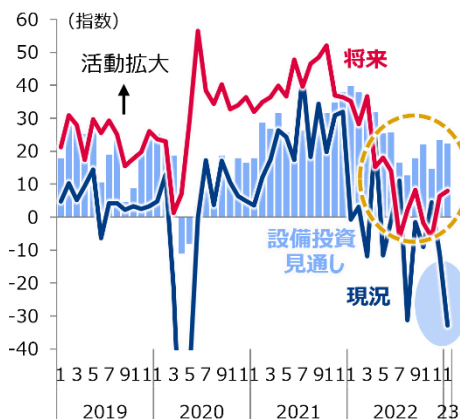
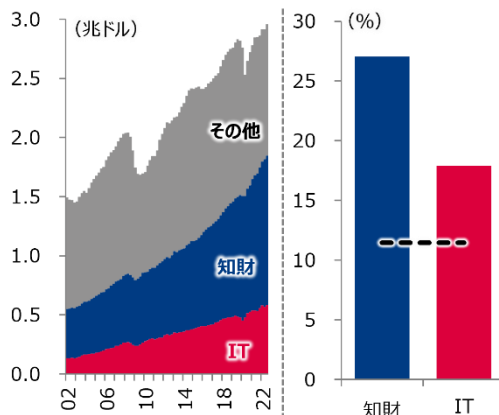
## 1 鉱工業生産指数

注：破線は19年平均。  
出所：FRBより三菱総合研究所作成

## 2 設備稼働率・コア資本財受注

注：破線は設備稼働率の1972年から2021年の長期平均水準。  
出所：FRB、米国商務省より三菱総合研究所作成

## 3 NY連銀製造業景況感指数

注：設備投資見通しは、「6カ月先増加」-「減少」の値。  
出所：NY連銀より三菱総合研究所作成4 設備投資 (左)  
・資本ストック減耗率 (右)注：資本ストック減耗率 = 21年の減耗費 / 20年の資本ストック。  
破線は全体平均。  
出所：米国商務省より三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 22年12月の鉱工業生産指数は前月比▲0.7%と前月（同▲0.6%）に引き続き低下した。製造業も同▲1.3%と前月（同▲1.1%）から低下幅を拡大した。鉱業も同▲0.9%と3カ月連続で低下した（図表1）。
- 内訳をみると、大寒波襲来に伴う暖房需要の増加で公益事業（同+3.8%）が大幅増を続けた一方、製造業のうち、機械（同▲3.4%）や石油・石炭製品（同▲3.1%）が大幅に低下し、全体を押し下げた。
- また、12月の設備稼働率は全産業が78.8%（前月同79.4%）、製造業が77.5%（前月同78.6%）といずれも22年11月以降、急低下している（図表2）。先行指標のコア資本財受注は11月同+0.1%（前月同+0.3%）と22年7月以降横ばいで推移しており、需要が抑制されつつあることを示した。

## 基調判断と今後の流れ

- 製造業の活動は縮小傾向にある。12月下旬に襲来した記録的な大寒波の一時的な要因に加え、金融引き締め継続が需要を押し下げている。
- 1月NY連銀製造業景況感指数（現況）は▲32.9と、コロナ危機による経済封鎖直後の20年5月（▲48.5）以来の低水準に落ち込んだ（図表3）。大寒波襲来後も落ち込みが続いており、活動が縮小基調にあることを示した。
- 先行きについて、製造業活動は縮小するものの、大幅な落ち込みは避けるとみる。FRBの金融引き締め継続とコロナ危機以降に伸長した財需要の一本は引き続き押し下げ要因となる。一方で、①仕入れコストの低下による収益改善、②DX・GXに伴うIT及び知財投資やサプライチェーンの再構築など、事業変革に対する投資需要の底堅さ、が活動を下支えすると考えられるからだ。
- ②について、1月の設備投資見通しは22.3と19年平均（19.9）を上回っている（図表3）。特に、22年7-9月期時点で設備投資の約6割を占め、かつ減耗率の高いITや知財を中心に、投資需要は底堅く推移するだろう（図表4）。